

## 2024 年度理工学部 シラバス(共通)

科目ナンバー	(ST)INF116J	配当学年	1 年	開講学期	春学期
科目名	情報処理実習1(5 組)[M]				
担当者名	川口 達也			単位数	1 単位

### 1. 授業の概要・到達目標

本科目は、「学習教育目標(B-1) 工学基礎(情報)」に重要な科目である。

本講義では、情報を発信するための、工学文書の記述方法とデータ処理の仕方の基礎を学んだ後、表面からは見えにくいコンピュータの重要な役割とソフトウェア、それを実現するためのコンピュータ言語およびプログラム手法について学ぶことを通じて、コンピュータを道具として利用するための基礎知識と技術の修得を目標とする。

尚、本講義は情報処理実習1と密接にリンクしている。また、本講義によって身につけた知識は以下の科目等の理解を補助する。実験工学・演習、弾性力学 FEM、機械設計製図 B、メカトロニクス実習、コンピュータ機械工学、機械工学実験 A 及び B、制御工学1及び2、機械力学、ロボット工学、その他レポートの提出が要求される科目、ゼミナール、卒業研究、大学院での研究、企業での報告書作成など。

### 2. 授業内容

- [第 01 回] 【情報処理教室での対面実施】授業の進め方 接続や開発環境の設定方法など
- [第 02 回] 【メディア授業・オンライン】プログラミング言語入門。プログラミング言語とは
- [第 03 回] 【メディア授業・オンライン】制御文1～条件分岐と繰り返し複雑な構造を表現する制御文
- [第 04 回] 【メディア授業・オンライン】制御文2～条件分岐と繰り返し複雑な構造を表現する制御文
- [第 05 回] 【メディア授業・オンライン】関数1
- [第 06 回] 【メディア授業・オンライン】関数2
- [第 07 回] 【メディア授業・オンライン】配列1
- [第 08 回] 【メディア授業・オンライン】配列2(文字列)
- [第 09 回] 【情報処理教室での対面実施】中間試験(実技)
- [第 10 回] 【メディア授業・オンライン】ポインタとアドレス1
- [第 11 回] 【メディア授業・オンライン】ポインタとアドレス2
- [第 12 回] 【メディア授業・オンライン】ポインタとアドレス3
- [第 13 回] 【メディア授業・オンライン】まとめ
- [第 14 回] 【情報処理教室での対面実施】期末試験(実技)

### 3. 履修上の注意

本科目はメディア授業である。初回の授業(対面)にて各種設定方法等の説明を行う。2回目以降のオンライン授業は通常、Zoom を用いて実施する。オンラインの場合は大学外から接続しても構わない(もちろん情報処理教室も使用可)。

大学外から接続して受講する場合は、ネット接続環境や VPN 接続設定、および開発環境の整備等が必要になる。これらの設定方法は初回の授業で説明する。大学外から接続するには、高速なインターネット接続環境、Windows 系の PC または Mac が必要であるが、詳しくは第1回目の講義で説明する。

情報処理実習1と連携して講義を進めるので、本講義を情報処理実習1と同時に履修することが強く望まれる。コンピュータ言語も「語学」と同様、数多くのトレーニングを経なければ上達しない。このため、毎回課題を課す。毎回の講義内容は、その回毎に自力で出来るようになることが要求される。個人個人の達成度を的確に評価するため、中間および最終回に実技試験を行う。中間試験および期末試験は大学の所定の教室で実施する。指定された以外の場所からの受験はできないので注意すること。

### 4. 準備学習(予習・復習等)の内容

大学の情報処理機器を利用するには事前に学内ネットワーク(MIND)利用講習会を受講し、MIND が利用できるようになっておく必要がある。第1回講義までに済ませておくこと。質問の受け付けおよび回答には Teams を利用するが、これには Meiji Mail が利用できる必要がある。課題の提出や中間、期末試験には Online Judge を用いる。このシステムの使用方法は授業内で説明する。

### 5. 教科書

Web 上のテキストを参照のこと。アドレスは Oh-o! meiji にて通知する。

## 2024 年度理工学部 シラバス(共通)

---

### 6. 参考書

ハーバートシルト, 独習 C, 翔泳社

ハーバートシルト, 独習 C++, 翔泳社

---

### 7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内容の連絡には主に Oh-o! meiji を, 質問の受付と応答には Teams を用いる。Teams ではオフィスアワーの時間に囚われずにいつでも質問することができる。

---

### 8. 成績評価の方法

演習課題(50%)と試験(50%)により評価する。試験では実際にプログラム作成能力が問われる。講義内容 60%の理解を合格基準とする。

---

### 9. その他

オフィスアワー 火曜日 15:20~17:00

ロボット工学研究室:D103

「情報と計測・制御」

基本キーワード: 計算機利用の基礎(16 時間)

個別キーワード: 数式処理(3時間), プログラム言語(18 時間)

---

### 10. 指導テーマ

---

### 11. 進行計画

---

## 2024 年度理工学部 シラバス(共通)

科目ナンバー	(ST)INF116J	配当学年	1 年	開講学期	春学期
科目名	情報処理実習1(6組)[M]				
担当者名	黒田 洋司			単位数	1 単位

### 1. 授業の概要・到達目標

本科目は、「学習教育目標(B-1)工学基礎(情報)」の達成に必要な必修科目である。

本講義では、情報を発信するための、工学文書の記述方法とデータ処理の仕方の基礎を学んだ後、表面からは見えにくいコンピュータの重要な役割とソフトウェア、それを実現するためのコンピュータ言語およびプログラム手法について学ぶことを通じて、コンピュータを道具として利用するための基礎知識と技術の修得を目標とする。

尚、本講義は情報処理実習1と密接にリンクしている。

また、本講義によって身につけた知識は以下の科目等の理解を補助する。

実験工学・演習、弾性力学 FEM、機械設計製図 B、メカトロニクス実習、コンピュータ機械工学、機械工学実験 A 及び B、制御工学1及び2、機械力学、ロボット工学、その他レポートの提出が要求される科目、ゼミナール、卒業研究、大学院での研究、企業での報告書作成など。

### 2. 授業内容

- [第 01 回] 【情報処理教室での対面実施】授業の進め方 接続や開発環境の設定方法など
- [第 02 回] 【メディア授業・オンライン】プログラミング言語入門。プログラミング言語とは
- [第 03 回] 【メディア授業・オンライン】制御文1～条件分岐と繰り返し複雑な構造を表現する制御文
- [第 04 回] 【メディア授業・オンライン】制御文2～条件分岐と繰り返し複雑な構造を表現する制御文
- [第 05 回] 【メディア授業・オンライン】関数1
- [第 06 回] 【メディア授業・オンライン】関数2
- [第 07 回] 【メディア授業・オンライン】配列1
- [第 08 回] 【メディア授業・オンライン】配列2(文字列)
- [第 09 回] 【情報処理教室での対面実施】中間試験(実技)
- [第 10 回] 【メディア授業・オンライン】ポインタとアドレス1
- [第 11 回] 【メディア授業・オンライン】ポインタとアドレス2
- [第 12 回] 【メディア授業・オンライン】ポインタとアドレス3
- [第 13 回] 【メディア授業・オンライン】まとめ
- [第 14 回] 【情報処理教室での対面実施】期末試験(実技)

### 3. 履修上の注意

本科目はメディア授業である。初回の授業(対面)にて各種設定方法等の説明を行う。2回目以降のオンライン授業は通常、Zoom を用いて実施する。オンラインの場合は大学外から接続しても構わない(もちろん情報処理教室も使用可)。大学外から接続して受講する場合は、ネット接続環境や VPN 接続設定、および開発環境の整備等が必要になる。これらの設定方法は初回の授業で説明する。大学外から接続するには、高速なインターネット接続環境、Windows 系の PC または Mac が必要であるが、詳しくは第1回目の講義で説明する。

情報処理実習1と連携して講義を進めるので、本講義を情報処理実習1と同時に履修することが強く望まれる。コンピュータ言語も「語学」と同様、数多くのトレーニングを経なければ上達しない。このため、毎回課題を課す。毎回の講義内容は、その回毎に自力で出来るようになることが要求される。個人個人の達成度を的確に評価するため、中間および最終回に実技試験を行う。中間試験および期末試験は大学の所定の教室で実施する。指定された以外の場所からの受験はできないので注意すること。

### 4. 準備学習(予習・復習等)の内容

大学の情報処理機器を利用するには事前に学内ネットワーク(MIND)利用講習会を受講し、MIND が利用できるようになっておく必要がある。第1回講義までに済ませておくこと。質問の受け付けおよび回答には Teams を利用するが、これには Meiji Mail が利用できる必要がある。課題の提出や中間、期末試験には Online Judge を用いる。このシステムの使用方法は授業内で説明する。

### 5. 教科書

Web 上のテキストを参照のこと。アドレスは Oh-o! meiji にて通知する。

### 6. 参考書

## 2024 年度理工学部 シラバス(共通)

ハーバートシルト, 独習 C, 翔泳社

ハーバートシルト, 独習 C++, 翔泳社

---

### 7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内容の連絡には主に Oh-o! meiji を, 質問の受付と応答には Teams を用いる。Teams ではオフィスアワーの時間に囚われずにいつでも質問することができる。

---

### 8. 成績評価の方法

演習課題(20%)と試験(80%)により評価する。試験では実際にプログラム作成能力が問われる。試験中にはネット検索等は利用できないので注意すること。講義内容 60%の理解を合格基準とする。

---

### 9. その他

オフィスアワー 火曜日 15:20~17:00

ロボット工学研究室:D103

「情報と計測・制御」

基本キーワード: 計算機利用の基礎(3時間)

個別キーワード: データ解析(3時間), プログラム言語(18 時間)

---

### 10. 指導テーマ

---

### 11. 進行計画

---

## 2024 年度理工学部 シラバス(共通)

科目ナンバー	(ST)INF116J	配当学年	1 年	開講学期	春学期
科目名	情報処理1(5 組)[M]				
担当者名	川口 達也			単位数	2 単位

### 1. 授業の概要・到達目標

本科目は、「学習教育目標(B-1) 工学基礎(情報)」に重要な科目である。

本講義では、情報を発信するための、工学文書の記述方法とデータ処理の仕方の基礎を学んだ後、表面からは見えにくいコンピュータの重要な役割とソフトウェア、それを実現するためのコンピュータ言語およびプログラム手法について学ぶことを通じて、コンピュータを道具として利用するための基礎知識と技術の修得を目標とする。

尚、本講義は情報処理実習1と密接にリンクしている。また、本講義によって身につけた知識は以下の科目等の理解を補助する。実験工学・演習、弾性力学 FEM、機械設計製図 B、メカトロニクス実習、コンピュータ機械工学、機械工学実験 A 及び B、制御工学1及び2、機械力学、ロボット工学、その他レポートの提出が要求される科目、ゼミナール、卒業研究、大学院での研究、企業での報告書作成など。

### 2. 授業内容

- [第 01 回] 【情報処理教室での対面実施】授業の進め方 接続や開発環境の設定方法など
- [第 02 回] 【メディア授業・オンライン】プログラミング言語入門。プログラミング言語とは
- [第 03 回] 【メディア授業・オンライン】制御文1～条件分岐と繰り返し複雑な構造を表現する制御文
- [第 04 回] 【メディア授業・オンライン】制御文2～条件分岐と繰り返し複雑な構造を表現する制御文
- [第 05 回] 【メディア授業・オンライン】関数1
- [第 06 回] 【メディア授業・オンライン】関数2
- [第 07 回] 【メディア授業・オンライン】配列1
- [第 08 回] 【メディア授業・オンライン】配列2(文字列)
- [第 09 回] 【情報処理教室での対面実施】中間試験(実技)
- [第 10 回] 【メディア授業・オンライン】ポインタとアドレス1
- [第 11 回] 【メディア授業・オンライン】ポインタとアドレス2
- [第 12 回] 【メディア授業・オンライン】ポインタとアドレス3
- [第 13 回] 【メディア授業・オンライン】まとめ
- [第 14 回] 【情報処理教室での対面実施】期末試験(実技)

### 3. 履修上の注意

本科目はメディア授業である。初回の授業(対面)にて各種設定方法等の説明を行う。2回目以降のオンライン授業は通常、Zoom を用いて実施する。オンラインの場合は大学外から接続しても構わない(もちろん情報処理教室も使用可)。

大学外から接続して受講する場合は、ネット接続環境やVPN 接続設定、および開発環境の整備等が必要になる。これらの設定方法は初回の授業で説明する。大学外から接続するには、高速なインターネット接続環境、Windows 系の PC または Mac が必要であるが、詳しくは第1回目の講義で説明する。

情報処理実習1と連携して講義を進めるので、本講義を情報処理実習1と同時に履修することが強く望まれる。コンピュータ言語も「語学」と同様、数多くのトレーニングを経なければ上達しない。このため、毎回課題を課す。毎回の講義内容は、その回毎に自力で出来るようになることが要求される。個人個人の達成度を的確に評価するため、中間および最終回に実技試験を行う。中間試験および期末試験は大学の所定の教室で実施する。指定された以外の場所からの受験はできないので注意すること。

### 4. 準備学習(予習・復習等)の内容

大学の情報処理機器を利用するには事前に学内ネットワーク(MIND)利用講習会を受講し、MIND が利用できるようになっておく必要がある。第1回講義までに済ませておくこと。質問の受け付けおよび回答には Teams を利用するが、これには Meiji Mail が利用できる必要がある。課題の提出や中間、期末試験には Online Judge を用いる。このシステムの使用方法は授業内で説明する。

### 5. 教科書

Web 上のテキストを参照のこと。アドレスは Oh-o! meiji にて通知する。

### 6. 参考書

## 2024 年度理工学部 シラバス(共通)

ハーバートシルト, 独習 C, 翔泳社

ハーバートシルト, 独習 C++, 翔泳社

---

### 7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内容の連絡には主に Oh-o! meiji を, 質問の受付と応答には Teams を用いる。

Teams ではオフィスアワーの時間に囚われずにいつでも質問することができる。

---

### 8. 成績評価の方法

演習課題(50%)と試験(50%)により評価する。試験では実際にプログラム作成能力が問われる。講義内容 60%の理解を合格基準とする。

---

### 9. その他

オフィスアワー 火曜日 15:20~17:00

ロボット工学研究室:D103

「情報と計測・制御」

基本キーワード: 計算機利用の基礎(16 時間)

個別キーワード: 数式処理(3時間), プログラム言語(18 時間)

---

### 10. 指導テーマ

---

### 11. 進行計画

---

## 2024 年度理工学部 シラバス(共通)

科目ナンバー	(ST)INF116J	配当学年	1 年	開講学期	春学期
科目名	情報処理1(6組)[M]				
担当者名	黒田 洋司			単位数	2 単位

### 1. 授業の概要・到達目標

本科目は、「学習教育目標(B-1) 工学基礎(情報)」に重要な科目である。

本講義では、情報を発信するための、工学文書の記述方法とデータ処理の仕方の基礎を学んだ後、表面からは見えにくいコンピュータの重要な役割とソフトウェア、それを実現するためのコンピュータ言語およびプログラム手法について学ぶことを通じて、コンピュータを道具として利用するための基礎知識と技術の修得を目標とする。

尚、本講義は情報処理実習1と密接にリンクしている。また、本講義によって身につけた知識は以下の科目等の理解を補助する。実験工学・演習、弾性力学 FEM、機械設計製図 B、メカトロニクス実習、コンピュータ機械工学、機械工学実験 A 及び B、制御工学1及び2、機械力学、ロボット工学、その他レポートの提出が要求される科目、ゼミナール、卒業研究、大学院での研究、企業での報告書作成など。

### 2. 授業内容

- [第 01 回] 【情報処理教室での対面実施】授業の進め方 接続や開発環境の設定方法など
- [第 02 回] 【メディア授業・オンライン】プログラミング言語入門。プログラミング言語とは
- [第 03 回] 【メディア授業・オンライン】制御文1～条件分岐と繰り返し複雑な構造を表現する制御文
- [第 04 回] 【メディア授業・オンライン】制御文2～条件分岐と繰り返し複雑な構造を表現する制御文
- [第 05 回] 【メディア授業・オンライン】関数1
- [第 06 回] 【メディア授業・オンライン】関数2
- [第 07 回] 【メディア授業・オンライン】配列1
- [第 08 回] 【メディア授業・オンライン】配列2(文字列)
- [第 09 回] 【情報処理教室での対面実施】中間試験(実技)
- [第 10 回] 【メディア授業・オンライン】ポインタとアドレス1
- [第 11 回] 【メディア授業・オンライン】ポインタとアドレス2
- [第 12 回] 【メディア授業・オンライン】ポインタとアドレス3
- [第 13 回] 【メディア授業・オンライン】まとめ
- [第 14 回] 【情報処理教室での対面実施】期末試験(実技)

### 3. 履修上の注意

本科目はメディア授業である。初回の授業(対面)にて各種設定方法等の説明を行う。2回目以降のオンライン授業は通常、Zoom を用いて実施する。オンラインの場合は大学外から接続しても構わない(もちろん情報処理教室も使用可)。

大学外から接続して受講する場合は、ネット接続環境やVPN 接続設定、および開発環境の整備等が必要になる。これらの設定方法は初回の授業で説明する。大学外から接続するには、高速なインターネット接続環境、Windows 系の PC または Mac が必要であるが、詳しくは第1回目の講義で説明する。

情報処理実習1と連携して講義を進めるので、本講義を情報処理実習1と同時に履修することが強く望まれる。コンピュータ言語も「語学」と同様、数多くのトレーニングを経なければ上達しない。このため、毎回課題を課す。毎回の講義内容は、その回毎に自力で出来るようになることが要求される。個人個人の達成度を的確に評価するため、中間および最終回に実技試験を行う。中間試験および期末試験は大学の所定の教室で実施する。指定された以外の場所からの受験はできないので注意すること。

### 4. 準備学習(予習・復習等)の内容

大学の情報処理機器を利用するには事前に学内ネットワーク(MIND)利用講習会を受講し、MIND が利用できるようになっておく必要がある。第1回講義までに済ませておくこと。質問の受け付けおよび回答には Teams を利用するが、これには Meiji Mail が利用できる必要がある。課題の提出や中間、期末試験には Online Judge を用いる。このシステムの使用方法は授業内で説明する。

### 5. 教科書

Web 上のテキストを参照のこと。アドレスは Oh-o! meiji にて通知する。

### 6. 参考書

## 2024 年度理工学部 シラバス(共通)

ハーバートシルト, 独習 C, 翔泳社

ハーバートシルト, 独習 C++, 翔泳社

---

### 7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内容の連絡には主に Oh-o! meiji を, 質問の受付と応答には Teams を用いる。Teams ではオフィスアワーの時間に囚われずにいつでも質問することができる。

---

### 8. 成績評価の方法

演習課題(50%)と試験(50%)により評価する。試験では実際にプログラム作成能力が問われる。試験中にはネット検索等は利用できないので注意すること。講義内容 60%の理解を合格基準とする。

---

### 9. その他

オフィスアワー 火曜日 15:20~17:00

ロボット工学研究室:D103

「情報と計測・制御」

基本キーワード: 計算機利用の基礎(16 時間)

個別キーワード: 数式処理(3時間), プログラム言語(18 時間)

---

### 10. 指導テーマ

---

### 11. 進行計画

---